重要なまちづくりの課題の現状評価シート

重要なまちづくりの課題（めざすべき姿）	高齢者が生きがいを持って活躍している		年度	平成27年度
			責任部長	福祉こども部長
			主担当課長	高年福祉課長
施策名	高齢者が生きがいを持って生活できる環境をつくる	No.9	関係課	―

1. まちづくり指標の現状

まちづくり指標	指標のめざす方向	現状値	実績値					目標値
		H18	H20	H21	H22	H23	H24	5年後
		H24	H25	H26	H27	H28	H29	10年後
社会に活躍の場を持っている高齢者の割合（%）	↗	33.7	35.8	33.7	35.5	38.7	37.2	42.0
		37.2	40.5	36.2	39.8			49.8
趣味サークル、ボランティアに参加している高齢者の割合（%）	↗	30.0	33.9	31.0	31.0	36.7	34.9	38.3
		34.9	38.1	36.6	37.2			45.6
就職を希望する高齢者の就職率（%）	↗	6.5	5.5	4.5	3.5	3.0	3.9	10.5
		3.9	3.8	4.4	4.6			14.6

2. 外的要因（世論、自然環境、社会動向、民間・NPO活動等）

超高齢社会を迎え、団塊の世代が高齢者の仲間入りとなり、平成27年に高齢者人口は4人に1人が65歳以上となっている。平均寿命が延び、定年退職後の人生が長くなり、生きがいを持って生活できる場所や機会の提供が求められているなかで、高齢者のボランティア活動への参加意識は高く、高齢者が参加するNPO・ボランティア団体等による活動は生きがいづくりに大きな役割を果たしている。学校では高齢者を招いたり、子供たちが高齢者施設を訪問するなど教育の場での高齢者との交流が進められている。経済において、リーマンショック以降の不況により、就職率は低迷していたが、経済政策によりゆるやかではあるが、景気は回復していくと見込まれている。

3. めざすべき姿に対する現状評価（まちづくり指標や外的要因等からの評価）

現状評価	B 停滞	高齢者が増加し、定年後の人生が長くなることにより、生きがいを持って生活できる場所や機会の提供が求められているが、まちづくり指標すべて良好傾向であるものの、目標値に到達するには数字が低調であり、全体としては停滞気味である。

評価がB・Cの場

4. 事務事業群に対する評価（行政活動の評価）

長期成果（事業群①）	長期成果（事業群②）	長期成果（事業群②）	長期成果（事業群④）
高齢者が生きがいをもって働くことができる	高齢者が自分にあった趣味を持っていたり自分の役割を持っている		
就労の場の確保事業	伝承教育等講師派遣事業	シルバー無料入浴事業	
シルバー人材センター補助事業	高齢者の生きがいと健康づくり推進協議会交付金	としよりの家等運営事業	
	高齢者大学事業	高齢者訪問事業	
	教養講座・趣味クラブ講習会委託事業	金婚祝事業	
	スポーツ大会委託事業	敬老会委託事業	
	ことぶき作品展・趣味クラブ発表会		
	健康農園運営事業		
	生きがいづくり情報提供事業		
	老人クラブ補助事業		
	娯楽大会等委託事業		
	三世代交流事業		

評価観点	1. 長期成果は重要なまちづくりの課題（めざすべき姿）の一歩手前の状態となっており、モレなくダブリなく設定されているか。 2. 各事業群の事務事業は、長期成果を達成するのに必要十分であるか。
評価	長期成果の設定は「就労」と「趣味や自分の役割」という切り口で捉えており問題なく、事務事業についても過不足なく十分であり、順調に実施している。
次年度の改善計画	【改善】老人クラブ補助事業について、補助金の見直しを検討し、各老人クラブのやる気を引き出し活発な活動を促す。

＊＊＊